

資料3-1 名護市中心市街地まちづくりのコンセプト・ゾーニング

1. これまでの計画の振り返り

2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見

3. 実証実験等の取組状況

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

1. これまでの計画の振り返り(名護湾沿岸基本構想・基本計画)

■名護湾沿岸基本構想・基本計画では

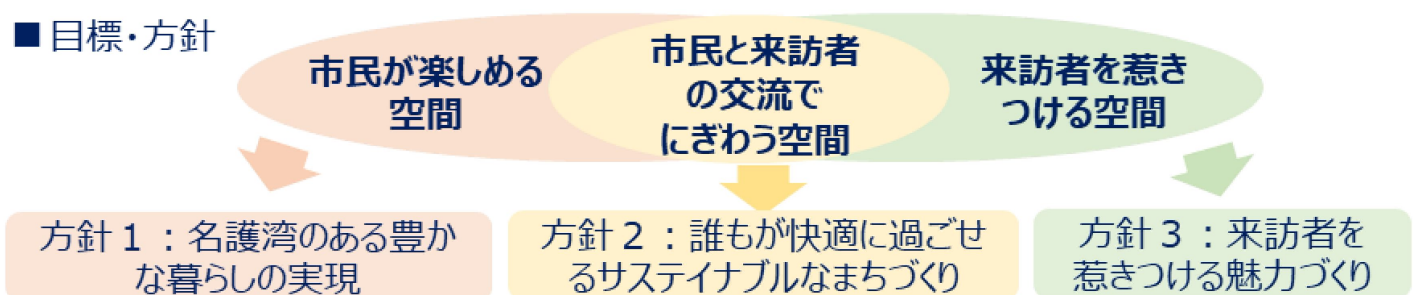
- 中心市街地を含む名護湾沿岸の魅力をいっそう高めることで、市民及び来訪者の憩いの場として活用してまちの賑わいを生み出すことを目指しています。

（名護市 令和2年3月）
名護湾沿岸基本構想

■コンセプト

海をまるごと堪能できる名護湾沿岸
～海を楽しみ、海を味わい、海を眺め、海で憩う～

■目標・方針



（名護市 令和3年3月）
名護湾沿岸基本計画

■名護漁港周辺エリアのコンセプト・戦略

◇コンセプト まちなかの賑わいを生み出す、やんばるの生活・観光拠点 ～
市民の生活利便性を高め、来訪者が観光地を巡る拠点となる～

◇戦略

【市街地活性化】

まちなかの資源を活かし、名護湾沿岸と連携することで中心市街地を活性化させる。

【生活・観光拠点の形成】

名護湾沿岸へのアクセス手段と市内の回遊手段の充実により、生活拠点及びやんばるの観光拠点としての地位を確立する。

1. これまでの計画の振り返り(名護市総合交通ターミナル整備基本計画)

■ 名護市総合交通ターミナル整備基本計画では

- ・名護漁港周辺・中心市街地エリアのコンセプトとして、『Life & Travel Home ～暮らしと旅のホーム（家・駅・プラットフォーム）となるまち～』を掲げています。
- ・総合交通ターミナルを名護・北部の玄関口（ヒンプン）、ウォーカブルストリート（庭）、ウォーカブルストリート（活動・表現の場）、中心市街地エリアを屋敷（生活・滞在の場）と位置付けています。

名護漁港周辺・中心市街地エリア： Life & Travel Home ～暮らしと旅のホーム（家・駅・プラットフォーム）となるまち～

位置づけ
方向性
やんばる・名護の資源活用につながる、人を呼び込む起爆剤

市民の活力の活用による賑わい・魅力の発信

名護の既存資源（飲食街、ビール、宿泊施設等）の活用

集客施設・交通結節点：
【ヒンプン】名護・北部の玄関口
【周遊観光の誘導】 【シビックプライドの醸成】

ウォーカブルストリート：
【庭】活動・表現の場
【市街地への誘導】 【市民活動の推進】

中心市街地エリア：
【屋敷】生活・滞在の場
【観光滞在機能の充実】 【生活利便の充実】

【市民】

① 市民が名護で
の生活を楽しむ
ことができる

【物販・飲食機能】

【市民活動機能】

【飲食・買い物機能】

② 市民が安心して名護で生活
することができる

【情報発信機能】

【地域イベント機能】

【居住機能】

【来訪者】

③ 沖縄北部・名護の魅力を呈
示できる

【情報発信機能】

【地域イベント機能】

【物販機能】

④ 来訪者が名護を拠点に滞在を
楽しむことができる

【飲食・イベント機能】

【ナイトイベント機能】

【宿泊・滞在（飲食）機能】

1. これまでの計画の振り返り(その他：スマートシティ名護モデル実装事業)

■スマートシティ名護モデル実装事業では

- ・昨今のデジタル技術の発展や社会動向を踏まえ、「スマートシティ名護モデル」の確立を目指している。
- ・その姿の基本理念として、「響鳴都市」名護」が定義されており、まちづくりの推進に併せ、デジタル技術を導入することで地域振興及び産業振興との両立を目指す。

スマートシティ名護モデルの目指す姿「響鳴都市」名護」の実現イメージ

基本理念として定義した「響鳴都市」名護を実現するために、まちの側面・ひとの側面・しごとの側面（いわゆる地方創生の3要素）の実現が必要です。

そのために、様々なプレーヤーがつながり、相乗効果を発揮しながら形成していくまちの姿のキャッチコピーを「TSUNAGU CITY」とし、以下は、「響鳴都市」名護の構成要素における「理想の状態」が達成された名護のイメージです。

推進組織の概要

地域内外の様々なプレーヤーが集まることのできるソフト面の環境として、名護市におけるスマートシティ推進の核となる組織です。

TSUNAGU CITY NAGO

～人や企業がつなぎ・創るあたらしいまちづくり～



名称	一般社団法人名護スマートシティ推進協議会
設立年月	2023年1月16(日)
社員	株式会社ゆがふホールディングス 沖縄JTB株式会社 KPMGコンサルティング株式会社 シスコシステムズ合同会社 西日本電信電話株式会社株式会社デンソー
役員	代表理事 林 優子 理事 前田 貴子
事業内容	1.名護市におけるスマートシティ事業の推進及び沖縄県北部地域における関連事業との連携 2.名護スマートシティコンソーシアムの構築及び運用、管理 3.地域企業・人材の育成及び I C T 等の最新技術やノウハウを有する先進企業や行政等の多様な主体との関係構築
加盟団体・組織	(一社)スマートシティ・インスティテュート (SCI) 沖縄スタートアップ・エコシステム (一社)沖縄ITイノベーション戦略センター (ISCO) 沖縄SDGsパートナー

1. これまでの計画の振り返り

2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見

3. 実証実験等の取組状況

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見

- これまでのまちづくり推進協議会での意見からも、まちづくりのコンセプトに関して、以下のキーワードが挙がっています。

次世代グループ
「まちのにぎわい創出」

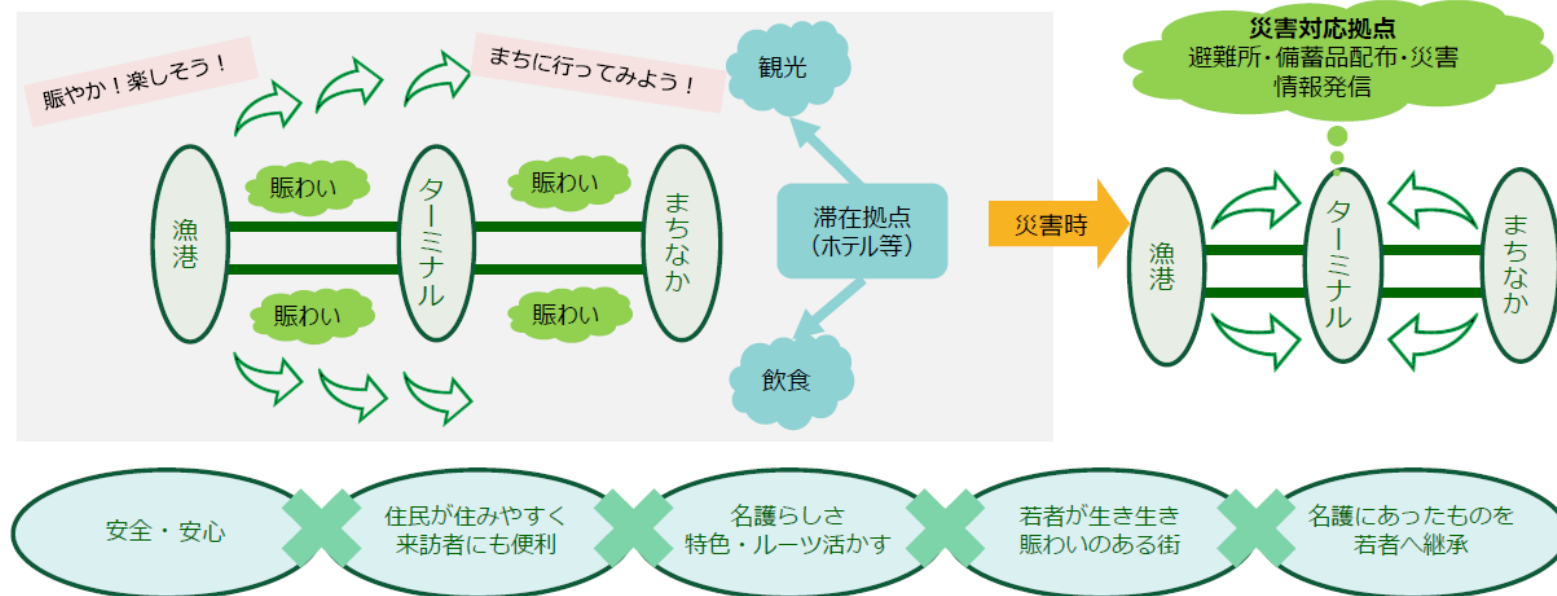
まちに人があふれる、お店も人も集まる、高さを利用し都市機能を集積させコンパクトなまちなか、自然が身近にある 等

地元住民グループ
「安全・安心なまち」
「名護の文化や特色を若者へ継承していく」

こどもをほったらかせる・お年寄りにとって安全なまち、元々名護にあったものをリターン・リボーン、名護のものを若者へ継承、ウロウロして楽しいまち、飲んで食べて楽しいまち 等

- R5年度に実施した住民ワークショップでは、平時には街なかに賑わいを創出しながらも、災害時には住民のみならず、来訪者の安全も確保できる複合的な機能を兼ね備えた施設が求められています。

「防災」、「交通」	「飲食」、「物販」、「企業支援」	「賑わい・交流」、「観光・宿泊」
- 住民・観光客が安全に避難・待機できる - 災害に対応した建物・道路・緑地 - ハブ交通の拠点	- 名護のグルメ・飲食店・土産物屋 - コワーキングスペース・ワーケーション施設 - ビジネスマッチング・学生の活躍の場	- 名護らしいシンボル、モニュメント、シンボルロード - 名護らしいお祭り



2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見

■ R6年度住民ワークショップ及び高校生アンケート調査

- ・今年度のワークショップは、「総合交通ターミナルに求める機能」及び「中心市街地エリアとの連携イメージ」を意見交換します。
- ・抽出した機能の具体的な利用イメージについて意見交換することで、総合交通ターミナルの具体化とあわせて中心市街地の今後展開について整理します。また、市民の本事業への愛着・参加意欲醸成に寄与する「ロゴマーク」のとりまとめに向け、ロゴマーク作成の要素となるキーワード等についても意見交換を実施します。
- ・高校生アンケート調査では、名護市内の高校生を対象に、「総合交通ターミナル及び中心市街地エリアへの期待・アイデア」及び「交通結節点として求められる機能やニーズ」について把握します。また、次年度以降の意向醸成やイベント等の取組み実施に際しての協力先候補を抽出します。

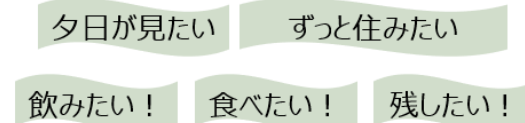
<住民ワークショップ>

	実施時期	参加者	実施内容（案）
第1回	令和6年10月23日（水） 14～16時	自治区（城区、大 中区、大東区、港 区）、通り会等 （飲食店、物販、 薬局、ラジオ 等）、学生（名桜 大、琉大）	①対象エリア周辺のありたい暮らしの意見交換 ②「賑わい・交流」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換
第2回	令和6年11月27日（水） 15～17時		①「賑わい・交流」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換 ②「防災」に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換 ③ロゴマーク作成の要素となるキーワード出し
第3回	令和7年 1月 ※実施日程調整中		①「交通」に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換 ②総合交通ターミナルの施設配置案に関する意見交換 ③事務局が作成したロゴマークに関する意見出し

<高校生アンケート調査>

項目	高校生アンケート調査内容（案）
実施期間	令和6年12月 2週間程度
調査対象	名護市内の高等学校に通う学生（約1,500人：名護高・北部農林高・名護商工高）
調査方法	WEBアンケート調査（QR・URL付調査協力依頼チラシを配布）
調査項目	1. 回答者基礎情報 2. 総合交通ターミナル・中心市街地エリアへの期待・アイデア 3. 総合交通ターミナル・中心市街地エリアに欲しい機能 4. キャッチコピーのアイデア 5. 本事業への関心度と関連事業（イベントやWS）への参画意向

<過年度ワークショップ成果：ロゴマーク例>
※今年度ワークショップにて更新予定



新時代の楽しいまち
NAGO HGO!!

2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見

■ R6年度住民ワークショップの実施結果（第1回：令和6年10月23日実施）

- ・第1回ワークショップでは、「①対象エリア周辺のありたい暮らし」及び「②「賑わい・交流」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項」について意見交換を実施しました。

■ 第1回WSにおける「賑わい・交流」等に関する主な意見

【集客施設・交通結節点】

- ・船着き場の雰囲気形成するフィッシャーマンズウォーフ（海鮮飲食店）
- ・海関連アクティビティの提供
- ・市街地へ誘導する情報発信機能
- ・様々なテーマのターミナルから市内散策ツアーのスタート地点

等

【ウォーカブルストリート】

- ・休憩やイベントができる広場
- ・屋外で飲食ができる空間
- ・降雨時や日射がキツイ時でも快適に移動できる屋根のある通り
- ・歩くと地域の歴史・文化を感じ・知ることができる通りづくり

等

【中心市街地エリア】

- ・空き店舗（バーや飲食店）の元の雰囲気を活かした宿泊施設
- ・いつでも停めることができる駐車場
- ・子どもと高齢者の交流空間（学童・一時預かり、高齢者施設）
- ・ターミナル・総合交通ターミナルとまちを繋ぐ仕掛け

等

■ 開催風景

各班の討議



討議結果発表



ワーク成果



2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見

■ R6年度住民ワークショップの実施結果（第2回：令和6年11月27日実施）

- 第2回ワークショップでは、シンボルロードの整備イメージをVRで投影しながら、「「賑わい・交流」、「防災」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項について意見交換」及び「ロゴマーク作成の要素となるキーワード出し」について意見交換を実施しました。

■ 第2回wsにおける「賑わい・交流」、「防災」等に関する主な意見

項目	【集客施設・交通結節点】	【ウォークブルストリート】	【中心市街地エリア】
「賑わい・交流」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項	・無目的に行けるお店 ・特産物販売所 ・観光案内所 ・無料駐車場	・自由に使えるイベント広場 ・休憩できる椅子、スペース ・日陰（アーケード、植栽他） ・キッチンカー	・溜まり空間（公園等） ・立体駐車場 ・集客施設（ミニシアター、ボーリング場）
「防災」等に関する利用イメージや中心市街地と連携できる事項	・一時避難場所（垂直避難） ・デジタルサイネージ（避難情報等の広報） ・防災備蓄倉庫 ・インバウンドの避難支援（多言語対応）	・防災広場（防災キャンプ） ・非常用トイレ ・非常用電源 ・地震等の際に安全に避難できる避難路（沿道建物の耐震化）	・垂直避難が可能な建物 ・避難用備蓄の充実 ・避難用の案内（サイン、防災無線 等） ・水はけのよい市街地整備（地域のかさ上げ等）

■ 開催風景

各班の討議風景 ※VR映像を見ながら意見交換



ワーク成果



1. これまでの計画の振り返り
2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見

3. 実証実験等の取組状況

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方
5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

3. 実証実験等の取組状況

■ウィルで巡るガイド付き名護まちまーいスマートツアー

■期間限定の観光二次交通としてのウィル移動サービス

- ・スマートシティ名護モデル推進事業として、歩行領域モビリティ「WHILL」の実証実験（無料体験）を実施している。

<スマートツアー 概要>

日時	2024年10月24日（木）、11月21日（木）、23日（土）、28日（木）、12月1日（日）、15日（日） いずれも10:00から2.5時間ほど
場所	名護漁港
実施内容	歩行領域モビリティに乗りながら、車では行けない場所や、徒歩では遠く高低差があるため訪れるのが難しい場所に、ツアーガイドの説明とともに名護の魅力を発掘。
対象者	どなたでも参加可能、1枠の定員は4名 ※体重115kg以下など一部制限あり
ツアールート	名護漁港から名護市街地、ナングスク周辺を巡るルート、所要時間は3時間ほど

<ウィル移動サービス 概要>

日時	2024年10月25日（金）～12月24日（火）
貸出場所	①名護市観光情報センター（名護漁港内） ②ホテルゆがふいんおきなわ
貸出時間	①9:30～16:00 営業時間内の1時間前までに返却（1回の利用は最長2時間） ②調整中
実施内容	宿泊客や観光客にウィルを貸し出し、周辺観光スポットを散策できる手段を提供
利用料金	無料、簡単なアンケートにご協力ください。

出典：WHILL株式会社HP

「<プレスリリース> 免許不要の近距離モビリティ「ウィル」の幅広い活用がスマートシティ名護モデル推進事業で採択」



ツアーコース



名護市観光情報センター 周辺地図

ホテルゆがふいんおきなわ 周辺地図



3. 実証実験等の取組状況

■ 津波警報時の避難ツールに「WHILL」を活用した避難訓練

- ・災害時の高齢者等の避難ツールとして、電動車いすを活用した避難訓練を実施している。

<訓練概要>

日時	2024年10月31日（木）12:00	場所	名護市観光情報センター（名護漁港内）横
目的	～さらに住みやすいまちづくりを目指し：住民の安心安全な生活を支える、災害時の避難ツールから観光エリアでの快適な移動サービスとして～ ・名護漁港には高齢の従事者が多く、津波警報時の迅速な避難が求められるが、避難場所が800m以上離れており、車両による移動は渋滞を考慮して難しい状況。 ・また、高齢者にとって長距離の徒歩避難は負担が大きいため、避難訓練では歩行領域モビリティを使用することで、津波警報発令時において名護漁港内の高齢従事者が安全かつ迅速に避難できるよう実践的に習得することが目的。		
実施内容	津波警報時における高齢従事者の迅速かつ安全な避難を確保するために、歩行領域の歩行領域モビリティを活用し、避難訓練を実施。		
対象者	名護漁港内従事者		
実施主体	沖縄トヨタ自動車株式会社	協力	（一社）スマートシティ名護推進協議会

出典：WHILL株式会社HP「<プレスリリース> 免許不要の近距離モビリティ「ウィル」の幅広い活用がスマートシティ名護モデル推進事業で採択」

<訓練時の様子>



出典：NHK沖縄NEWSウェブ「津波警報を想定 次世代型電動車いすで避難訓練 沖縄 名護」

3. 実証実験等の取組状況

■ 二次交通の実証実験

- ・総合交通ターミナルが整備されると、公共交通の乗継ぎや新たな人流が発生することになる。総合交通ターミナルに効率的、効果的な交通機能確保することを目的に、二次交通に対する利用者・事業者のニーズや導入・運営における課題、公共交通利用促進・利便性向上に向けた課題等を把握するための実証実験を行う。
- ・名護さくら祭りに合わせ、来場者に対して二次交通（レンタサイクルやキックボード等）を貸し出す。また、その利用者を対象にアンケート調査を実施することで、名護市総合交通ターミナルにおける二次交通のニーズを把握する。

<実施時期>

2025年1月25日（土）・26日（日）9時～17時
※第62回名護さくら祭りの2日間



出典：名護市観光協会「第61回名護さくら祭り」

<貸出しを行う二次交通の種類（イメージ）>

<貸出し場所>

- ・名護漁港
- ・市民会館
- ・名護市役所
- ・名護市営市場



レンタサイクル



出典：HELLO CYCLING

電動キックボード



出典：BRJ株式会社

WHILL

WHILL Model C2



WHILL Model S



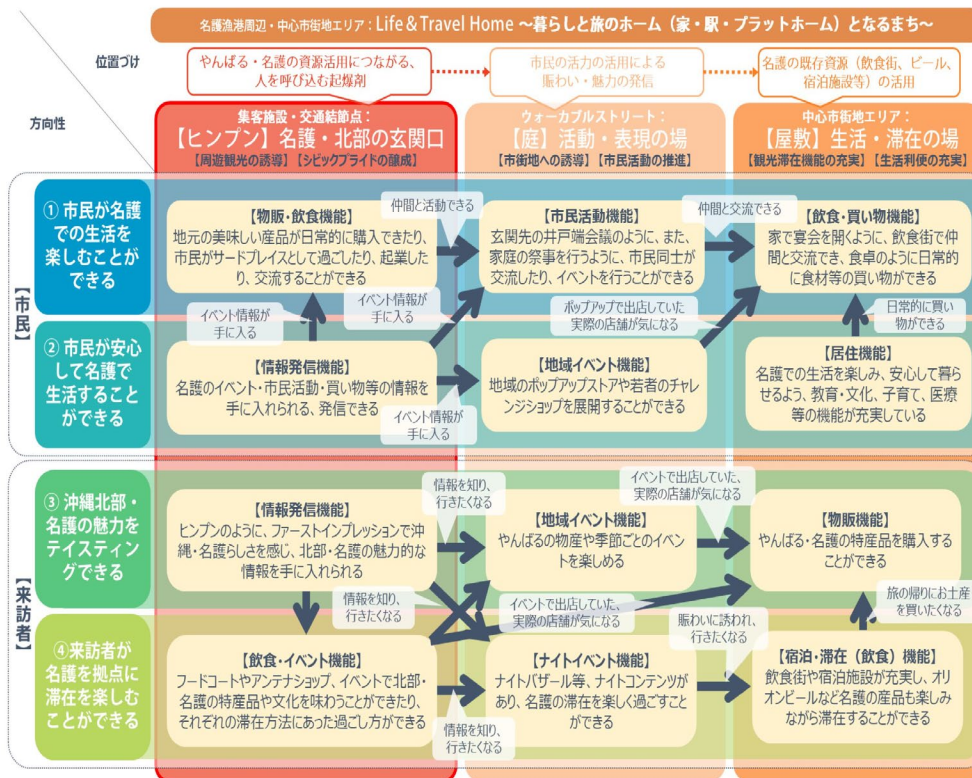
出典：WHILL株式会社

1. これまでの計画の振り返り
2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見
3. 実証実験等の取組状況
- 4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方**
5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方

■これまでの経緯を踏まえ、名護市総合交通ターミナル整備基本計画における名護漁港周辺・中心市街地エリアのコンセプトである『Life & Travel Home ～暮らしと旅のホーム（家・駅・プラットフォーム）となるまち～』の考え方をベースに、これまでの意見や住民ワークショップの意見を取り入れ、具体化を図る。

<名護市総合交通ターミナル整備基本計画のコンセプト>



+

<これまでの意見やワークショップ・アンケートの意見>

【集客施設・交通結節点】

- ・船着き場の雰囲気形成するフィッシャーマンズワーフ（海鮮飲食店）
- ・海関連アクティビティの提供
- ・市街地へ誘導する情報発信機能
- ・様々なテーマのターミナルから市内散策ツアーのスタート地点等

【ウォーカブルストリート】

- ・休憩やイベントができる広場
- ・屋外で飲食ができる空間
- ・降雨時や日射がキツイ時でも快適に移動できる屋根のある通り
- ・歩くと地域の歴史・文化を感じ・知ることができる通りづくり等

【中心市街地エリア】

- ・空き店舗（バーや飲食店）の元の雰囲気を活かした宿泊施設
- ・いつでも停めることができる駐車場
- ・子どもと高齢者の交流空間（学童・一時預かり、高齢者施設）
- ・ターミナル・総合交通ターミナルとまちを繋ぐ仕掛け等

これらのコンセプトやワークショップ、実証実験等での意見を踏まえ、まちづくり推進協議会では、名護市中心市街地まちづくりの具体化を図る

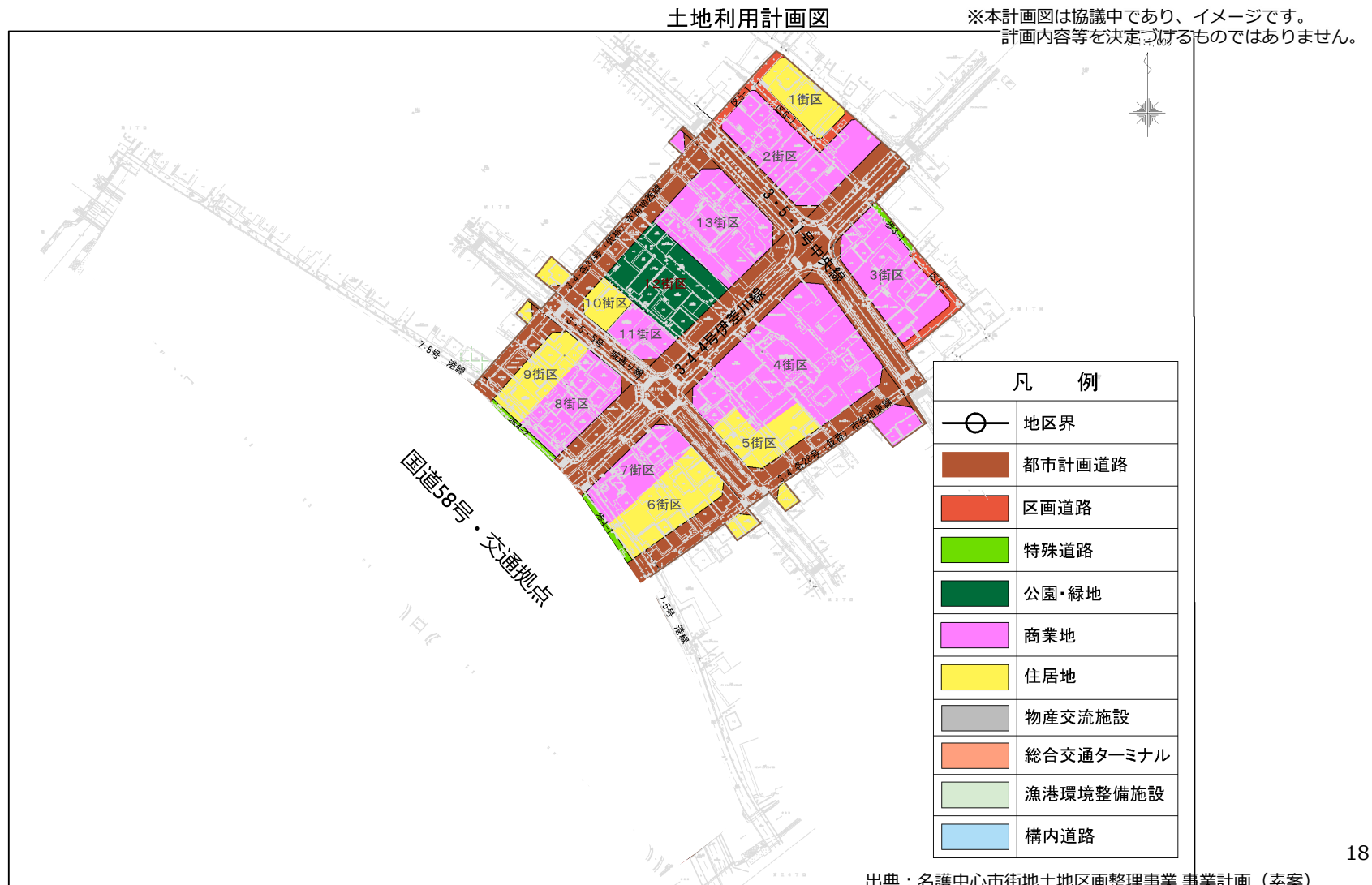
目次

1. これまでの計画の振り返り
2. これまでのまちづくり推進協議会・ワークショップでの意見
3. 実証実験等の取組状況
4. 名護市中心市街地まちづくりのコンセプトの考え方
- 5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方**

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■市街地整備等の検討状況

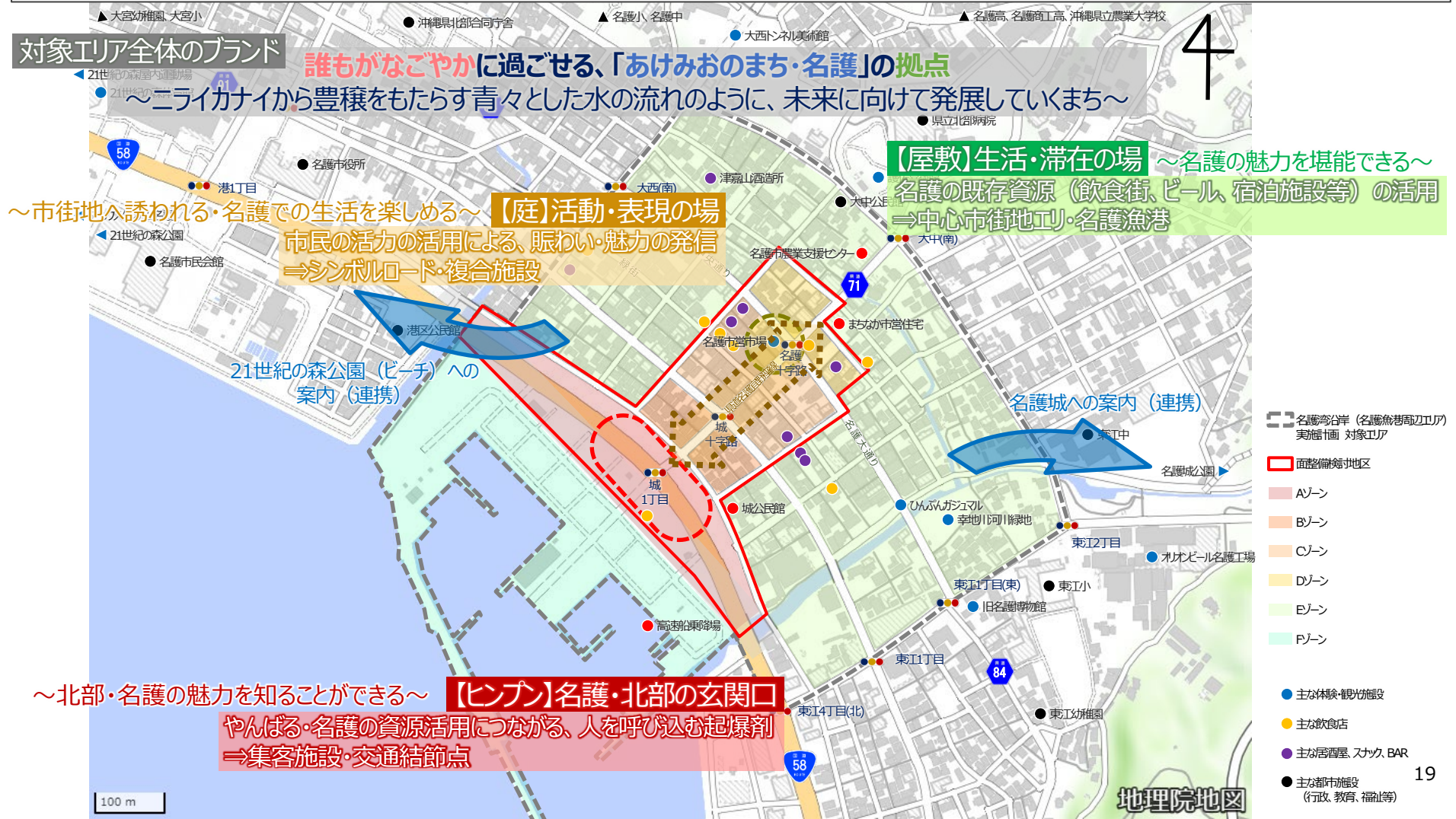
- 現在、「県道名護宜野座線のシンボルロード化」「シンボルロードの東西に市道の新設」等を検討している。
- シンボルロード沿道や県道名護本部線沿道は商業関連とし、区画に一部には公園・緑地を設ける計画を検討している。



5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

■ゾーニングの考え方（案）

- ・名護市中心市街地における、現在のまちの状況と名護市総合交通ターミナル検討部会での総合交通ターミナル等の配置検討位置、市街地整備の検討状況等を踏まえた、ゾーニングの考え方を示す。
- ・名護市総合交通ターミナル等の**交通拠点**を**シンボルロード**でつなぎ、**市街地エリア**へ**賑わいを波及**させる必要がある。



5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

※1画像出典：国土交通省「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン」（令和3年4月）

■ゾーニングの考え方（案）

位置づけ

【庭】活動・表現の場

～市街地へ誘われる・名護での生活を楽しめる～

市民の活力の活用による、賑わい・魅力の発信

⇒シンボルロード・複合施設

現状

- ・県道名護宜野座線（別名：平和通り）が位置し、名護漁港と名護市営市場を結ぶ
- ・車通りが多いが、歩行者の通行量は少ない
- ・市街地整備等で道路の拡幅等を検討

ゾーニングの考え方

シンボルロード

- ・連続性ある商業街区を形成



休憩・賑わいスペースの提供



キッチンカーの設置

複合施設

- ・中心部への誘客・集客性を高め公共サービス機能を核とする複合施設（例：市場機能の強化、図書館、多目的スペース、自習室、ボウリング、ミニシアター、映画館等（令和6年度住民ワークショップより））



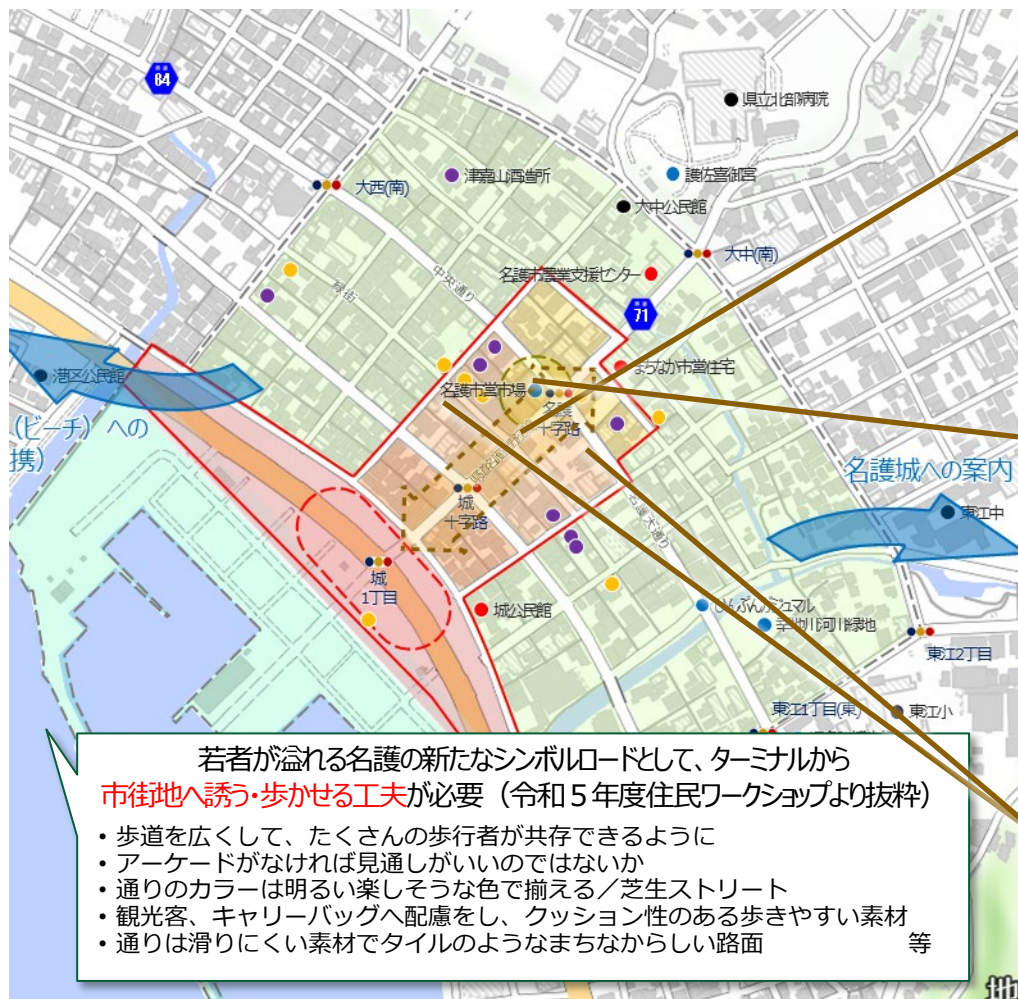
集客性の高い公共施設



まちなかモビリティ・ハブ※1

シンボルロードの后背ゾーン

- ・まちなかに人を引き込むため宿泊・滞在、コミュニティ、教育・文化、子育て、医療等の機能の複合



若者が溢れる名護の新たなシンボルロードとして、ターミナルから市街地へ誘う・歩かせる工夫が必要（令和5年度住民ワークショップより抜粋）

- ・歩道を広くして、たくさんの歩行者が共存できるように
- ・アーケードがなければ見通しがいいのではないかな
- ・通りのカラーは明るい楽しそうな色で揃える／芝生ストリート
- ・観光客、キャリーバッグへ配慮をし、クッション性のある歩きやすい素材
- ・通りは滑りにくい素材でタイルのようなまちなからしい路面 等

5. 名護市中心市街地まちづくりのゾーニングの考え方

※ 4 画像出典：名護市「名護湾沿岸（名護漁港周辺エリア）実施計画」（令和4年3月）
 ※ 5 画像出典：名護市商工会HP
 ※ 6 画像出典：第一マリンサービス（株）HP

■ゾーニングの考え方（案）

位置づけ

【庭】活動・表現の場

～名護の魅力を堪能できる～

名護の既存資源（飲食街、ビール、宿泊施設等）の活用
 ⇒中心市街地エリア・名護漁港

現状

- ・飲食店が多く立ち並び、11の”通り会”がある / 通りごとに個性が感じられる / 特に夜間に賑わいがあり、昼間は歩行者が少ない
- ・市街地整備等で道路の拡幅等を検討（中央線・市街地東線、西線）

ゾーニングの考え方

中心市街地エリア

- ・若者から高齢者まで誰もが暮らしやすいまち



名護漁港

- ・中核漁港としての機能の集約化・高度化とともに、観光や商工業と連携

